

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 12 月 12 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士学生
氏名	戸田和弥

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
コンゴ民主共和国
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
出自集団から移出するボノボメスの発達の要因の調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 09 月 22 日 ~ 平成 27 年 12 月 06 日 (76 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学、古市剛史教授、WGBR、CREF
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
(調査概要) ボノボの父系型社会(メスが集団間を移籍し、オスが集団に残留する社会)を対象に、出自集団から移出に影響しているメスの発達の要因を解明するため、未成熟個体の行動・社会関係および性ホルモン動態の調査を行う。 本研究は、野生ボノボの調査地であるコンゴ民主共和国ワンバ村にて行う。研究対象となる集団の個体は、すべて識別されており、十分に人に馴れているため、個体追跡による行動観察が可能である。また、ワンバは長期調査地であるため、個体の出自・血縁情報、複数の集団の個体情報が蓄積されており、本研究の遂行に適切な環境である。
(調査目的) 今期間の調査目的は、未成熟個体を対象とした行動観察および尿サンプルの収集に努め、行動・社会関係および性ホルモン動態の発達の变化と集団間移籍との関係を分析するための基盤を形成する。
(調査状況) 未成熟個体を対象とした、個体追跡による行動観察および尿サンプルの収集は、今調査期間の目標をおおむね達成できた。この期間に3個体のメスが出自集団を離れたことで、移出直前の個体を観察することができ、それぞれの行動データ、尿サンプルを収集できた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



Grooming between daughters and mothers before their natal emigrations.

1. Nadir (emigration at 7yr)
2. Natsuko (emigration at 6yr)

集団の出会いを通して、多くのメスが集団間を移籍することから、ボノボの集団間の出会いは移籍に大きく関わっていると考えられる。今調査期間に、研究対象である2集団の (E1、Pe)、年に数日あるかどうかの Inter-Group Encounter 立ち会うことができ、出会い時の未成熟個体の行動を11月5、6日、15日～22日まで観察した。この際に、Peを出自集団とする移籍メス3個体の行動を記録し、母親や出自集団メンバーとの社会交渉を観察した。



3. Infants Playing
4. Adolescent Playing

(For some reason female children sometimes pose like this while playing)

6. その他 (特記事項など)

PWS リーディングプログラムより経済的なご支援を頂き、今調査を実施することができました、PWSの先生方、スタッフの皆さま、誠にありがとうございました。調査生活を支えてくれたコンゴ民主共和国ワンバ村の皆様に厚くお礼申し上げます。